

# 平成 28 年度自転車安全点検全国普及活動事業報告

安全・快適な自転車利用を促進するための事業は昭和 42 年(1967 年)から続いています。

(一財)自転車産業振興協会は日本自転車軽自動車商協同組合連合会(日商連)と日商連傘下の 44 都道府県自転車商協同組合の協力を得て、日常使用している自転車の点検・整備の促進を図るため、自転車の点検事業と講習会を実施しました。

平成 28 年度においては、拠点型と店舗型を併せて自転車 387,500 台を点検し、441 会場で講習会を実施しました。

「拠点型安全点検」は学校・公園・街頭等の 2,848 会場において、学校・警察署・地方公共団体・自転車安全推進団体等と連携して、353,847 台を点検しました。

【実施会場の内訳】

平成	会場数	小学校	中学校	高校	公共施設	公園/街頭	その他
28年	2,848	1,229	898	257	120	181	163
27年	2,891	1,229	914	267	117	183	181
26年	3,002	1,292	914	261	134	234	167
25年	3,043	1,314	902	275	168	226	158
24年	3,030	1,294	888	297	147	217	187

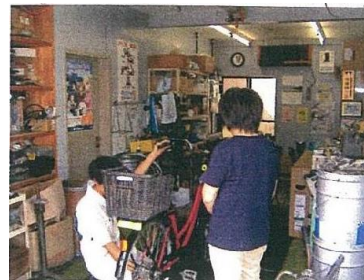
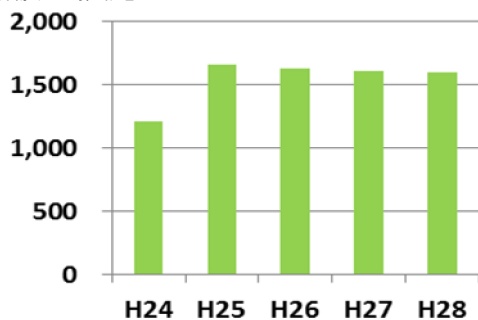


【平成 28 年度総点検台数における要整備個所の割合】

総点検台数	ブレーキ	チェーン	ペダル	車輪	ライト	リフレクタ	錠	ハンドル	変速機	フレーム	サドル	ペダル	その他
353,847	6.9%	5.5%	5.0%	4.7%	2.4%	1.8%	1.1%	0.8%	0.6%	0.5%	0.3%	0.2%	1.7%

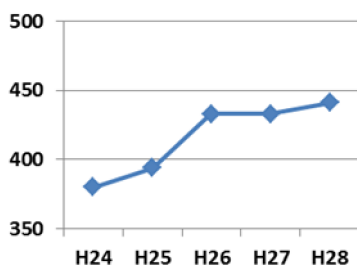
「店舗型安全点検」は日商連傘下組合員自転車店の 1,595 店舗において、33,653 台を点検しました。

【店舗数の推移】

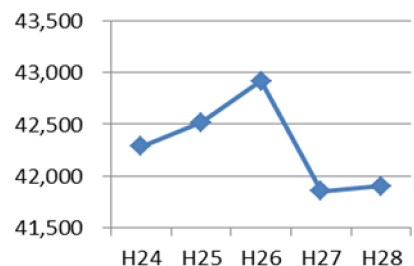


「安全点検講習会」は自転車の整備点検の必要性和安全利用の講習会を学校・警察署・地方公共団体・自転車安全推進団体等が実施する 441 の催事会場で開催し、41,903 名の参加がありました。

【会場数の推移】



【参加人数の推移】



《実施組合(都道府県自転車商協同組合)の所見》平成 28 年度分概略・抜粋

拠点型安全点検

<p>自転車の安全点検の重要性を周知し、安全な自転車で交通ルールを守って事故のない社会の構築に寄与する有意義な機会であり、今後とも継続して実施してほしい要望が多数ありました。</p>
<p>毎年、学校点検の依頼が多くあるので、拠点型の事業費をもう少し増やして会場数を増やしたい。</p>
<p>今年度は雨が多く、予定していたができない会場が何箇所もありました。生徒数の多い学校は、学年別に実施した会場もありました。TSマークの更新が依然として進んでいない。</p>
<p>高校生になると、中学校から同じ自転車を利用している生徒が多く、要整備車が多くなる。小・中学生は新しい自転車が多いが、空気圧が低いものが目立つ。パンク防止のためにも、月に一度は空気を入れる事を生徒さんに伝えてもらった。ベルやライトの不備も多かったが、新車の台数の減少が要因と思う。拠点型の安全点検を通して見つけた要整備車は、きちんと整備しないと通学の許可が出ない学校もあり、点検の意義を感じる。新車でない自転車がも多く、安全に乗って頂くためにも安全点検、TSマークが必要と強く感じた。</p>
<p>学校、PTA、警察、安全協会など多くの協力のもと終えることができた。</p>
<p>各支部にもっと実施していただけるよう推進していきたい。TSマークの更なる推進と期限切れにならないよう継続を告知していきたい。</p>
<p>学校や交通安全協会の協力のもと、安全点検を実施した。要整備箇所の上位はブレーキ、チェーンであった。タイヤの空気不足も目立った。</p>
<p>年々、点検台数が減ってきている。少子化の影響が大きいと思われる。</p>
<p>点検会場数及び点検台数が減少してきている。</p>
<p>昨年より総点検台数が増え、整備良好車も増えている。支部によっては、インフルエンザのため開催が中止になり、点検台数が例年より減少している所もある。新しい自転車がも多く不良車が少なかった。</p>
<p>本事業に賛同された学校、公共団体等からの要請を受け、自転車点検を実施したうえで、その場で出来る調整や整備は実施いたしました。全体的に生徒数の減少により、点検台数も少なかった。</p>
<p>整備良好車は全体の78.4%。要整備車は21.6%。要整備車ではタイヤの摩耗や空気不足等、車輪に関することが多く見受けられる状況。点検時に、TSマークの啓発をもっと図っていききたい。</p>
<p>学校統合でスクールバスの利用。親の送迎。自転車に乗る機会が少なくなっている。なお一層、事故につながらないように自分でできる簡単な自転車の点検に心掛けるよう指導した。</p>
<p>要整備車の割合は、昨年度とほぼ変化がなかった。小中高は共にベルがトップ、次に小学でライト、中学でブレーキとチェーン、高校でリフレクタと車輪が要整備となっていた。ほぼ新車が多い中、昨年同様の項目が要整備車となっている。</p>
<p>小中学校の統廃合により、遠距離通学になり、自転車を使わずバス通学者が増え、点検台数が減少している。チェーンとブレーキの不良台数が多く、事故に直結するため、学校での点検時には先生に説明し、生徒への指導をお願いしている。</p>
<p>徐々にTSマークが浸透してきたためか、要整備車が減ってきたと思う。それに対し、防犯貼付率が100%にならない。</p>
<p>要整備車が全体の約23%と毎年度横ばい状態であるが、防犯登録未貼付が1.3%と年々改善されている。TSマーク未貼付は51%と高く、点検整備の重要性及び付帯保険の充実等を本事業を通じ、学生と保護者の認識を高めていく所存である。</p>
<p>安全点検を行う支部が固定しているように思われます。各支部の意識が高まれば違うのかと思い、さらに指導していきたいと考えています。</p>
<p>実施会場数は昨年度より2増えたが、点検台数は721台減となった。昨年度よりリフレクタの要整備件数は203台減となり、啓発活動の効果のように感じた。空気圧の問題が多く、項目の「車輪」と別に追加項目として加えていただきたいです。</p>
<p>小中学校を中心に実施。ベル、ブザー、ブレーキ、チェーンの整備が必要な自転車が少なかった。</p>
<p>交通安全協会などとの会議において、自転車安全点検の重要性を話したところ、交通安全教室と同じ日に自転車安全点検を実施した支部があった。</p>
<p>自転車に不具合があっても修理しないで乗っている人が多い。TSマークの期限切れが多く、チェーンのたるみが多い。</p>
<p>点検整備の必要性を知ってもらうことができた。</p>
<p>昨今、安全性が危惧される自転車が氾濫している。要整備車はベル、ブレーキ箇所が多く、ライトはオートライトが中心であった。中・高の3年生の自転車は壊れたライトも多い。点検後は「組合員の自転車店」に来店されるケースが多い。1店でも多く事業に取り組むことを願う。</p>
<p>今迄は安全点検項目にTSマークの有無が記載されているが、点検者の意識が薄かったように思います。今年度の点検ではTSマークについての所見記入が多くみられ、自転車保険の関心の高さがうかがえたように思います。</p>
<p>自転車利用の安全と安心を強く啓発することで、自転車利用の増加につながり、業界にとってのプラスとするべき事業であり、継続を望む。</p>
<p>学校からの点検要請が増加している。点検後の要整備車の整備がされないまま乗っている自転車が多い。</p>
<p>本年度も各支部の協力により、計画通り安全点検を実施することができた。現状を維持し、自転車利用者の意識向上に努めたい。</p>
<p>毎年恒例の学校行事として定着している地域では認知度も高まり、一定の成果が上がっているようである。しかし、支部によっては、組合員店舗の減少や高齢化のため、事業の実施自体が難しい地域もあるようだ。</p>
<p>過疎化による統合や学校の方針の変更により、小学校の点検数が減少している。</p>
<p>今年も例年通り学校・公共団体と連携して自転車の無料点検を恙なく行うことができました。台数としては、昨年より少し少なかったが、良好車の割合が増えているので毎年の点検活動の結果かと思われます。</p>
<p>整備良好車の解釈が担当者によって、まちまちで点検した時に簡単な調整をすれば済むのは、良好車と解釈する人と、全く何もしなくて良い自転車を良好車と解釈する人がいます。</p>
<p>この自転車安全点検全国普及活動は組合の基幹事業に定着しつつあり、組合員の積極的な活動により、学校関係者、警察署及び地区交通安全職員の協力を得ながら、自転車の安全利用の促進ときめ細かな指導を行なって感謝されているとのこと。</p>

点検事業を実施している学校においては、教師やPTAの協力も得られていて、確実に成果が表れている。
毎年続けている支部は学校から声がかかり、点検を実施しているが、新規に実施する支部はない状況。
前年より要整備車が多かったので、生徒への注意喚起をお願いしていきたい。
安全、安心の意識は向上している。防犯登録の貼付率は高いが、TSマークの貼付率は低いので、普及につながるよう努めていきたい。
春・秋の全国交通安全運動と連動した自転車マナーアップ強化キャンペーンの一環として、自治体の交通対策協議会より交通安全指導の強化並びに各種啓発活動への協力要請があり、各支部(地区)では、所轄警察署からの協力依頼を受けて主に街頭での自転車の安全点検整備・交通安全指導を重点に実施。自転車利用者の安全意識の向上と交通ルール周知に努めた。
地域の方々と連携を取り、実施いたしました。次年度も地域の方々、学校、警察などと連携し、自転車の安全対策に積極的に取り組みたいと思います。
今年度は高校での点検実施より、小中学校から主に山間部の少人数の学校からの点検依頼が多くあった。また、ある会場では町村が学校とタイアップして、自動車運転免許を返納して自転車乗用に切り替えた人々が安全乗用をしてもらうための点検整備に出向するよう広報し、協力をしてくれたことに、この事業が一般社会に浸透されてきているのを改めて痛感し、より一層努力せねばと思った。
学校側が交通安全に力を入れているところは整備ができていますが、そうではない学校では要整備車が見つかったも修理をあまりしない傾向がある。総点検台数の約56%がTSマークを貼付していない。防犯登録は約6%が貼付していない。昨今、自転車事故が多発しているので、より一層の指導が必要です。

## 店舗型安全点検

点検のみで来店される人はいないので、呼びかけや修理で来られた方の自転車の点検をする店舗がほとんどでした。気兼ねなくお客様に来店してもらうことに苦労されているようです。
組合として店舗型安全点検を本年度は特に推進するように各店舗へ強く伝達しました。TS更新のために来店された客もいたようで、不備な箇所は承諾を得てその場で整備をして売り上げがあり、「良かった」と云う意見もありました。
少しずつ活動が認識されてきたように感じるが、安全点検の必要性を感じているユーザーは少なく、お声掛けなしに来店される方は少数と言わざるを得ない。
点検の際、点検整備の大切さをお客様に伝え、安全に対する考え方を再認識してもらうよう努めた。今年度も実施店舗が少ないので、もっと各店舗に呼びかけ実施店舗を増やしていきたい。
店舗型は、直接お客様と話ができ、点検整備の大切さを認識してもらえる機会になる。整備をすれば、自転車利用者に安全と安心を提供するだけでなく、組合員にとっても店のアピールができ収益にも繋がる。来年度も継続して実施する予定である。
要整備車が多い。事業をやってくれるお店が年々減っている。
点検を実施している店として分かり易い「のぼり旗」掲げて、自転車店、全店で実施して欲しいと思っているが、伝票等の記入が大変と断られる組合員も多い。
使い捨て感覚の方が多くようで、修理のみで帰られ、点検までする方が少ない。状態の悪い自転車に点検を勧めても断られる。TSマークへの認知度が増したためか、例年より点検を受けるお客様が多かった。
自転車利用者に対して、乗用安全の意識を高めるため、各自転車小売店において、自転車各部の安全点検を実施し、要整備箇所があれば自転車利用者に整備を促し、実施いたしました。
のぼり旗を見てご来店される方が少しずつ増えている。高齢者の要整備車が多く、悪くなる前に来てもらえるよう声掛けをしていきたい。TSマークについて、通学で購入する方々の認知度は上がってきている。
今年度も、秋の全国交通安全運動が始まる前に、安心、安全に自転車に乗ってもらえるように自転車の無料点検を実施。
安全点検での来客は、無かったが、修理にともない点検を行った。要整備箇所は車輪が最も多く、ブレーキ、チェーンとなっている。今年度は、ライトの不備の割合も多くなっている。防犯登録証の貼付率は94%、TSは2.7%であった。顧客の皆さんにできる限り、安全な自転車に乗っていただけるよう、これからも点検を続けていきたいとのことであった。
点検を実施した自転車の9割以上が要整備車であった。ほとんどの店舗でタイヤの空気不足、ブレーキの不備で要整備車となる自転車が多く、事故に直結する部位であるためお客様に説明し、修理を勧めるが後回しにしてしまう方が多い。危険を説明し、整備良好車の台数の割合を増やしていきたい。
今迄、拠点型の点検実施がない支部では学生の自転車の不備に改めて気が付いた。事故防止のための安全整備の声掛けをすると思います。要整備箇所としてはタイヤ回り(摩耗やチェーンの緩み)の不備が多かった。
まだまだ、ユーザーの安全乗用に対する考えが希薄のように思われる。もっと自転車の安全点検に対する啓発活動が必要である。
全体的に整備の必要な自転車が少なかったが、タイヤの空気圧が少ない自転車が多く見られた。
タイヤ、ブレーキ等安全に係わる修理箇所が結構あり注意しました。したがって、点検が大切と実感しました。また、TSの必要性も指導しました。
タイヤの空気圧、チェーンの弛みの不具合が多くあり、日頃、整備点検する意識がほとんどの人になく状況です。ユーザーに自転車の整備点検の意識を高めたい。
修理のために来店された方にも安全点検を勧め、安全な自転車に乗ってもらえた。
ここでは、自転車保険の加入が義務化され、この条例施行に伴い「毎年点検」についても関心度が高く、今後も安心・安全な自転車PRに努めたい。また、近年の自転車はチェーン車よりベルト車がほとんどで、整備が減少したものの、安価な自転車は未だ整備箇所が多い。
店舗への集客事業として大変有効に実施されている。安全と安心は人と対面することでより強く訴える事ができ、それが、営業上のプラスとなりうる。故に、事業継続を望む。点検記念粗品を願う。
来店のお客様に積極的に声掛けをし、安全点検を実施した。整備箇所を店ですぐに整備でき良かった。

伝票の記入に関して理解してもらえない店舗が数件あったが、他はほぼ間違いなく記入されていた。多数の店が無料点検に参加でき、自転車の点検の大切さを痛感できました。今後もこの活動を推進していきたいと思います。
実施店舗が減ってきています。報告書や伝票を書くのが面倒だという理由が大半のようです。今回実施した店舗はすすんで実施してくれています。その中に、組合の事業だから面倒なところもあるけど、実施すると言われます。組合に対する考えもしっかりと持っています。結局、店主の前向きな考えのお店がこれから残っていくのではないかと気がします。
拠点型に比べ、お客様が足を運ばなくてはならない店舗型は通学許可を取るためには必要なことなので、前年並みの結果だった。日頃より販売店に気安く出入りできるような環境であれば、ユーザーの点検も増加すると思うのだが、「個人の店は敷居が高い」と聞く。まして価格の安い自転車が氾濫しているユーザーも自転車を点検整備して大事にしようとはしない。
店舗の安全点検を実施しているが、年間を通して実施している店舗と期間を限定してやっている店舗との差はありますが、ユーザーに対する対応には大差なく、成果は上々のようである。のぼり旗を掲げていると、通りすがりの客にも呼び込み効果が出ているものの、点検する自転車は量販店のものがほとんど。特にブレーキ調整などの不備を多く感じる。
ユーザーにとって、個人商店はなかなか入りづらく、無料点検ののぼり旗を見て来店する方は少ない。今回も組合員が外に出て声掛けをし、実施した店が多く、もっと気楽に町の自転車屋さんを活用して欲しいという感想もあった。「自転車も乗れば車の仲間入り」の標語のとおり、車検のように定期点検をすることによって少しでも事故がなくなるのであれば、このような地道な事業を続け、ユーザーに定期点検の重要性を染み込ませていくことが大事だと考える。
今回は昨年度より減少。通勤、通学、買い物などの途中、自転車にトラブルが起き、来店し、修理(パンクなど)をする中で、自転車の安全点検(無料)の趣旨を説明し、実施していることが多い。
修理で来店されたお客様に点検の必要性を説明して実施することが多かった。安全に長く乗っていただけるよう、定期的な点検は必要だと伝えていきたい。
ここでは、条例により、7月より自転車保険加入が義務化された。各店舗での自転車の安全利用に関する情報提供や自転車保険の加入確認等の取組について、自転車条例や交通ルールのチラシの配布と共に、昨年に引き続き、「自転車マナーアップ強化月間」の11月に組合員店舗での一斉無料点検を実施した。依然として、タイヤの空気圧不足、ブレーキの不良、チェーンのたるみ等が目立つため、日常の点検・整備の重要性について自転車乗用者の認識を深めることが必要であり、今後も各店舗での丁寧な説明と無料点検・整備の地道で継続的な実施が望まれる。
組合員の高齢化に伴い、店舗での安全点検の実施が難しくなってきておりますが、自転車の整備点検を促進すべく、来年度も積極的に取り組みたいと思います。

## 安全点検講習会

小中学生にはヘルメットの着用を、高齢者には無理な横断等をしないで皆の手本になるよう、安全な自転車の運転を呼び掛けた。自転車乗車時の交通法規の周知と交通ルールを守って安全運転をするように啓発する。
おはようサイクリングの自転車安全教室では、幅広い年齢層なので、自転車の正しい乗り方、走行前の点検等の重要性を指導説明した。小学生には交通ルール・正しい乗り方、TSマーク等について説明した。
サイクリング大会の会場で、参加者に合わせた内容で講習会を実施した。6月から施行された「自転車運転者講習制度」等の質問もあり、安全運転・安全点検への関心が高まっていると感じた。点検の重要性や付帯保険のTSマークの有用性を今後も広い層に伝えていきたいと思う。
学校、警察、安全協会、市区町村などの協力により多くの会場で実施することができた。自転車の乗り方・ルールなど、実技指導を行いながら講習した。
交通安全協会や幼稚園の協力のもと、小学生や幼稚園の父兄を対象に講習会を実施した。小学生に対しては分かり易い説明を心がけ、父兄に対しては自転車の事故例を話し、乗り方や点検整備等について講話をした。
郊外の学校ほど熱心である。地域性もあるのだろうが、大きな都市でこそ、乗り方の指導が大切だと思うが、組合からの働き掛けが必要なのかも考える。
年々、参加者が減少してきている。広報の方法等に再度の見直しの必要があると考えられる。今回、午前中のコース走行は雨のため中止となった。
学校では自転車通学を禁止しているが、帰宅後や休日に乗ることもある。3,5年生を対象に毎年自転車教室を実施している。今年は、自転車走行に不安を感じる児童はなく、皆、安全に楽しく走行していた。児童の交通事故減少に効果を得ている。
自転車の安全対策の向上を図るため、主に学校における各種催事に協力し、自転車の乗り方や点検整備について講話と実技を実施いたしました。学校の積極的に取り組む姿勢が見られました。
地域の警察、交通安全協会、また保護者の方々のご協力のもと開催。安全な乗り方に加え、実際に整備不良車を見てもらい、事故に遭わないよう点検整備についても説明した。
講習会を開くことにより、自転車事故で被害者、加害者にならないためにも正しい乗り方、ルール等を学習してもらった。
安全点検講習会を実施している学校や団体は毎年の恒例行事となってきており、参加する児童生徒からお年寄りまで、大変熱心に取り組んでくれている。自転車の正しい乗り方や危険な事例を改めて教わることで、それが周囲に広がって事故の減少に繋がればと思う。
少々の違反は黙認され、被害事故が大半を占めていた自転車も現在は重大な加害者ともなる時代である。自転車事故防止は自らが道交法遵守及びマナーアップが肝心である。本講習会を通じ意識向上の成果は得られたものとする。
ここでは自転車免許発行等啓発活動が盛んであり、今後も重要な事業になると思われる。組合員の高齢化が進んでおり、本事業の実施方法について検討を要望したいです。
グランドや学校周辺道路などで自転車走行練習を行い、一時停止で左右確認をすることや交差点・曲がり角で注意することなどを丁寧に指導し、交通安全への意識を高めることができた。
交通ルールを守って走行する、ヘルメットの着用、横断歩道の渡り方、TSの必要性を指導しました。
自転車の整備点検が交通事故を防ぐことを確認できた。定期点検の重要性を訴えることで来店し、点検整備する自転車利用者の増加を期待する。

<p>自転車を安全に利用する方法。年に1回の点検整備の大切さを学んでもらうことができた。</p>
<p>昨年に引き続き学校開催で「講習会」を実施した。生徒がモデルとなり、自転車点検指導を実施。また、警察官よりヘルメット着用有無で生死を分けた「交通事故例」や「自転車安全利用五則」等を説明され有意義な講習会であった。そして、学校側の管理体制強化も行き届いていた。</p>
<p>自転車業界の団体組織として社会に存在を認識してもらおうと共に、安全な自転車の購入と安全利用を促すことによる社会貢献事業として重要である。粗品を頒布できればありがたい。</p>
<p>安全な乗り方、マナー指導に関心が高まった。特に、親子の参加が多数あり、安全意識が深まった。</p>
<p>自転車の交通安全に関心を持つ学校や団体が増えているように思えるが、実施数にあまり変化がみられない。実施予定であった会場も告知不足で実施できなかったのも、しっかりと告知もしていきたい。</p>
<p>毎年、講習会を実施している地域では恒例の行事として定着している。参加人数が多い会場では2～3班に分かれて、実技や知識を交互に指導する等、工夫して実施している。また、警察や安全協会等と連携して、きめの細かい指導がなされている。</p>
<p>小学校は低学年と高学年とに分けて指導する必要がありました。警察の指導で自転車に乗れるのは4年生からとのことで、初めて乗る生徒も多く、乗る練習を中心に指導しました。高等学校及び小学校低学年は交通ルールを中心に指導しました。毎年、安全指導を実施し、地域に貢献することができています。</p>
<p>参加する子供達は交通ルールや乗り方の話を聞くだけでなく、実際に体験することが出来るので、良い経験になっています。保護者の手伝いも多いので助かります。</p>
<p>今年は例年に比べ受講者が少なかったようだ。組合からの受講者も今年はいなかった。午前中は警察と安全協会の担当者が講義を実施。午後は安全協会の理事長が自転車の点検整備等TSマークのことも盛り込みながら講話を行い、受講者は自転車に乗って安全な乗り方・危険行為等について身をもって体験した。組合からは理事長他がスタッフとして参加した。実技は子供自転車大会で使用するコースを数種類利用。自転車は身近な存在であり、安全な乗り方を身につけることは、今回のような講習会を受講しないとできないことだと参加者の一人が話されていた。受講したことを十分活かしていただくことを希望する。</p>
<p>どの会場でも交通ルール、定期的な点検の重要性を講習内容に取り入れている。自転車による事故の怖さを話す。皆、真剣になって話を聞いてくれたという感想を実施組合員よりいただいた。</p>
<p>主に子供と高齢者の交通事故防止を重点項目として交通安全教育行事等と連携し、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践や自転車点検整備に関する講習を実施した。今後も、自転車利用者が安全意識の向上と点検整備の励行の重要性に関する理解を深めることやさらに自転車の安全利用の推進に努めたい。</p>

以 上